

## 再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課

担当課長名：松谷 春敏

事業名：近鉄奈良線（東大阪市）連続立体交差事業	事業区分：街路事業	事業主体：大阪府	
起終点：自：大阪府東大阪市西岩田二丁目 至：大阪府東大阪市桜町		延長：3.3km	
事業概要： 本路線は、大阪と奈良を結ぶ幹線鉄道であり、とりわけ、本事業区間のラッシュ時における踏切遮断は長時間にわたり、踏切部で発生する交通渋滞は著しい。そこで、踏切を除却し、沿線の交通渋滞を緩和するとともに、鉄道による市街地分断を解消するものである。			
H4年度着工準備	H4年度都市計画決定	H4年度用地着手	H14年度工事着手
全体事業費	約613億円	事業進捗率	36% 供用済延長 0km
踏切交通遮断量	223,032台時/日		
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) -	総費用 (残事業)/(事業全体) - /673億円 事業費： - /673億円 維持管理費： - /0.00億円	総便益 (残事業)/(事業全体) - /1,489億円 移動時間短縮便益： - /1,399億円 走行経費減少便益： - / 77億円 交通事故減少便益： - / 13億円
基準年：平成18年			
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（鉄道交差道路又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上 の踏切道の除去もしくは交通改善が期待される） ・都市の再生（市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり） ・個性ある地域の形成（鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する）等			
関係する地方公共団体等の意見 地域住民より、事業の早期完成に対する要望を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成13年度に若江岩田駅前地区市街地再開発事業が完了している。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 再々評価時点において、進捗状況は用地95%、工事25%となっている。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成23年度の供用に向けて事業推進に努める。			
施設の構造や工法の変更等 特になし			
対応方針：事業継続			
対応方針決定の理由 事業の必要性が認められ、かつ事業進捗上も特段の支障がないと考えられるため。			
事業概要図			
次ページ			

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

事業概要図

